

# 婦人と子ども

大正六年十一月十日  
第十七卷第十一號

## 就任の挨拶

フリーベル會總會にて

フリーベル會長 湯原元一

中川前會長が本會々々長御辭任の結果、本會の慣例により私とその空席を充すことになりました。

私は斯の方面には誠に無經驗でありますし、

又特別に研究したことも御座りませんので、會長と言つても殆んど虚名になりはしまいかといふことを窃かに心配して居るのであります。さりながら普通教育の楷梯たる幼稚園教育のことでありますから職務上から云つても是非力を注がなければならぬ地位に私は立つて居るのであります。それ故に爾後は斯の方面にも及ばずながら大いに力を盡し、皆さんにも何かと御相談を願ひたいと思ひます。今日は新任の御挨拶に止めるつもりであ

りましたが、文部省の新しい統計を見て少しく感ずる所がありましたので、御承知ではありませんが、私の所感を述べる根據として数字的の報告をお取次ぎして見やうと思ひます。

さて我國に於ては、五年前なる明治四十四年には、幼稚園の數は四百九十六でありました、然るに今日に於ては六百三十三になつて居ります。即ち五年の間に百三十七の増加があつたわけでありまして、大分よい進歩を爲して居るのであります。更にその内容に於ても進歩してゐると想像されるのは五年前には一人の保姆は二十九人餘の幼児の保育に當つてゐたのでありますが、今日では一人の

保母は二十八人餘の幼児を保育して居るのであります、即ち相手にする幼児數が尠ければ尠い程保母の注意はよく行き互る筈なのでありますから右の數字によつて保育の状態が多少善くなりつゝあるといふを想像するに難くないのであります。

又現在の幼稚園數は今申しました如く、六百三十三であります、これを公立と私立とに分けてみますと、公立の數は二百三十四、私立の數が三百九十九でありまして、私人の經營に係る幼稚園の方が多いのであります。この數字に依つてみますと幼稚園といふものは未だ私人の事業であつて公の團體の事業と認められてゐないといふことが分るのであります。

それから又幼稚園には外國人の經營——といふよりは外國人の保母が却々力を盡されて居るのであります。小學校には外國人の先生といふのは殆んどありませんが、幼稚園の方ですと千七百七十八人の保母の中六人は外國人であります。之を以

て見ると宗教家達——の中には無論外國人が含まれて居ります——が多大の興味を以て斯の事業に關與して居ることが分るのであります。

右の事實と私立の園數の多いといふ事實とを合せて考へて見ますと、幼稚園事業はまだ慈善的の事業であると推斷してもいゝのであります。

私は幼稚園事業をもう一步進めて外國人が手を出す餘地を残さないやうにしたいと同時に私人の經營に委せず公の團體に依つて小學校と同じやうに盛んにしたいと思ふのであります。さうすれば斯の事業の基礎も固くなるし、發達も速くなるのであります。

將來幼稚園は如何なる方向に進むべきか、今までの如く慈善的の事業として進むべきか、制度上の改良を促して一般的公共事業とすべきか、幼児にとつて危険の多い都會生活に於て保育事業を益々普及するの要なきや否や等問題の數は實に多いのであります。

私は嘗つて中流以上の善良な家庭では飽くまでも家庭に於て兒童を教養すべきであつて、これが原則とならなければならぬ、若し特別な事情があつて中流以上の家庭で幼兒を幼稚園に托する場合にはそれは變則と見るべきである、そして幼稚園の存在は中流以下の家庭に取つては必要であるといふ意味を申述べたことがあります、然るに何うしたものか、これが誤り傳へられて私は幼稚園無用論者の如く見られて甚だ迷惑したことがあります。私は幼稚園に對しては今でも以上の如き考を持つて居るものでありまして、決して幼稚園に反對するものではないのであります。事實私は私の子供三人までを幼稚園へ送つて居るのであります。歐米諸國に於ては保育事業は實に熱心に研究せられて居ります。實驗心理學、兒童心理學、兒童衛生等あらゆる方面から確かなる科學的基礎を根據として仔細なる研究調査を爲しつゝある外國の殊に亞米利加の保育事業に較べてみると、日本の保育事業は未だくゞ暗中摸索を試みて居るに過ぎ

ないと言つてもいゝ位、幼稚な程度に居るのであります。將來斯の方面の研究が益々盛大にならねばならぬといふことは今更改めて言ふまでもないことであります。それに就ては幸ひに安井教授、倉橋講師、永井醫學博士、野田督學官を初めとして斯の方面に興味と研究心を持たれる諸先生が多いことは誠に力強い感じがするのであります。

最後に、保育のことには經驗が非常に必要であります。研究も必要であります、經驗といふことも亦實に必要であります、それ故將來は各幼稚園研究者が經驗を記録して之に意見を加へ、互ひにその經驗を交換したならば餘程効果がありはしないかと思ひます。私もなるべく用事を繰合せましてさういふ會合には出席し、いろくゞ皆さんから教へて頂きたいと思つて居ります。尙保育事業に關して、私の力の及びますかぎりは何なりとも御遠慮なくお申附下さることを望んで止まないのであります。今日は新任の御挨拶に附加へて些か所感を開陳いたした次第であります。(文責在記者)